

強者の戦略

【1996年度 一橋大】

次の文章を読んで、以下の問に答えよ。

ある個人が空間的に行動する場合、その行動のパターンを規定することになる生活世界の空間的な枠組みは、地形図のような客観的な地図の直接の反映によってではなく、外界の環境からの情報をもとにこの個人自らの心のなかに作り出された生活世界についての主体的な知覚によって与えられることが多い。これが、客観的な外界と自己の行動パターンとを媒介する。

こうした、ある個人の空間的な行動にとっての媒介となる生活世界の知覚のありさまを紙に描いたものは、「メンタルマップ」と呼ばれる。メンタルマップでは、客観的な地図に描かれている空間の形態がゆがんで表現され、それぞれの領域や場所には、客観的な地図とくらべたサイズの大小・色の濃淡・詳しさの違い・相対的な距離関係の歪曲などによって、その個人が外界の環境にあるひとつひとつの場所に与えた肯定的ないし否定的な価値付けや、その場所への訪問の頻度などが示される。

メンタルマップを読むことで、その個人が行動にとっての所与としている生活世界がどのようなものかを知ることができるし、それにもとづき、それぞれの個人ならびにその個人が一員となっている社会集団の行動パターンや社会そのもののありさまがどのようなものかを知ることでもある。

問1 図1と図2は、アメリカ合衆国のボストンに住む2人の黒人生徒が、自分の街について描いた自己の「メンタルマップ」である。また、図3は、このメンタルマップが表現している地区についての客観的な地図である。

これらの図から、この黒人生徒の日常的な行動の空間的なパターンはどのようなものであると判断されるか述べよ。解答の文中には、判断の根拠となった図の箇所を具体的に明示すること。ただし、図中「ミッションヒル計画地区」は白人が住む場所、「パーカー通り」より図の上方は黒人が住む場所、というセグリゲーションが存在している。(150字以内)

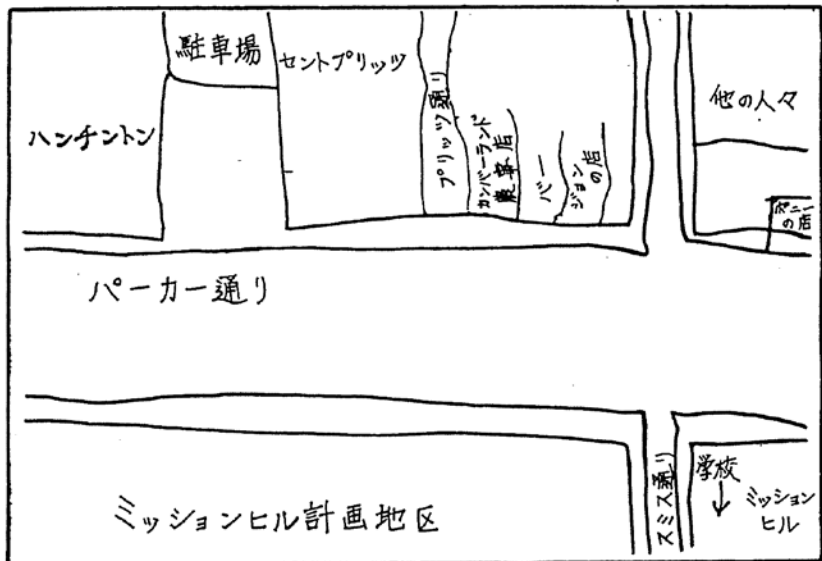
強者の戦略

図 1



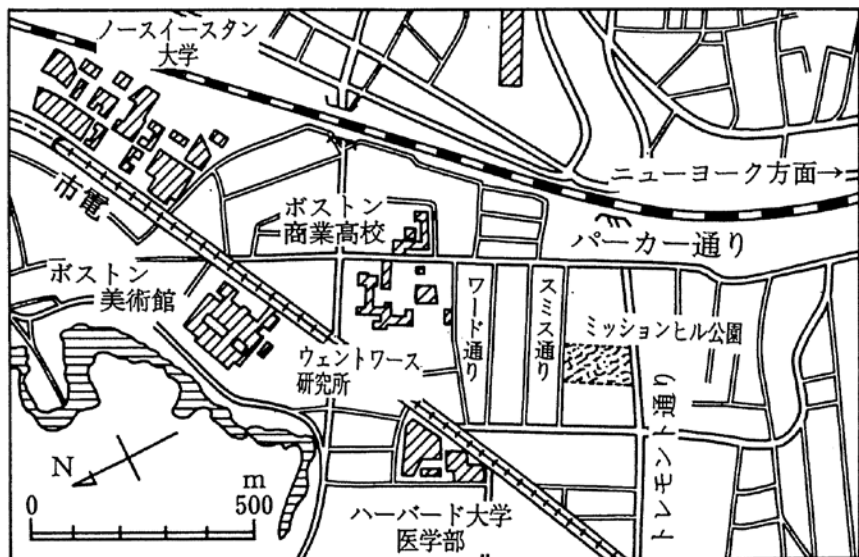
(グルード・ホワイト, 山本・奥野訳「頭の中の地図」より)

図 2



(同上書より)

図 3



強者の戦略

問2 下の文は、タイの中学校を卒業後、1970年代後半に来日し、東京にあるX高等学校に正規の生徒として入学して3年間学んで卒業したのち、さらに日本の大学に進んで4年間勉強し1980年代の半ばに卒業帰国したある元留学生(男性)が、大学卒業後およそ8年を経過して書いた文章の一部である。

このタイ人のグローバルな生活世界についての知覚は、高校・大学あわせ7年以上に及ぶ日本への長期留学を行った結果として、どのようなものになっていると考えられるか。前記小問1の図1および図2のやり方にならってこの元留学生がもつにいたった環太平洋地域についての「メンタルマップ」を1枚描き、必要に応じ文章で補足説明を加えて、彼の生活世界についての知覚のありさまを示せ。解答用紙のマス目と外枠は無視してよい。

「タイに帰国して外務省に勤務、92年からロサンゼルスにあるタイ国領事館の領事を勤めています。4年の任期を終えるとまたバンコクにある本省に戻ることとなります。本省では経済局・政務局・そして東アジア局での日本関係の仕事などを担当してきましたが、合衆国へ来てからは仕事の内容がすっかり変わってしまいました。現在ロサンゼルスだけでもタイ人が十万人はおり、これらの人々のための仕事におわれています。それでもケーブルテレビで日本語放送をみることができるので、日本の情報は欠かさずキャッチするようにしています。1993年4月にタイの王妃が日本を訪問されました。そのおりに本省の命でわずかな期間日本に出張する機会を得ました。残念ながらX高等学校まで行くことはできなかったのですが、高校の最寄り駅近くにあるY公園の桜を見てきました。さすがに日本の桜はきれいでした。」

前置き文

急に寒くなってきましたね。あんまんがおいしい季節になりました。色んな大学の文化祭も催されていると思うので、第一志望の大学を文化祭の時に訪れてみるのもありだと思います。

ところで今回の問題ですが、今までと趣向が違います。今年は、今年度の入試問題の中から選んで出題していこうと思っていたのですが、夏休みぐらいに発表された新しい学力試験の方針に影響を受けて、メンタルマップの出題をすることにしました。もともと地理という科目は思考力がものを言う科目だったと思いますが、《地理総合》になってもその思考力の養成は重要視されています。1996年度の一橋大学のこの問題は非常に解きづらい問題だと思いますが、思考力を問う良問であると言えます。そんなに窮屈な問題でもないのです。気が向いたときにふらっと考えてみてください！